

請願第 4号



2026年5月22日

教職員どうしの信頼関係とは何かについて 教育長が自分の考えを述べることを求める請願

町田市教育委員会 教育長様

住 所 [REDACTED]
連絡先 [REDACTED]
氏 名 [REDACTED]

(請願の要旨)

子どもの命を守り、不登校を減らし、「誰もが安心して通える学校」にすることを目的に、「教員が管理職も含めて、お互いを信頼して相談しあい情報を共有し、対応できること」を実現するために、教職員どうしの信頼関係とは何かについて、教育委員会を代表する教育長がご自分の考えを述べられることを求めます。

(請願の理由)

1. 調査委員会や文部科学省の指摘

2020年に発生した小学生の自死事件の再発を防止するため、「町田市いじめ問題調査委員会」が答申した「再調査報告書」(資料1)の「第2 いじめ防止のための提言」の第1項目に、「誰もが安心して通える学校」(p.103)を掲げ、「教員が管理職も含めて、お互いを信頼して相談しあい情報を共有し、対応できること」(p.106)を実現することを記しています。

また、文部科学省が2022年12月に公表した「生徒指導提要(改訂版)」(資料2)の「1.4 生徒指導の基盤」の最初に「1.4.1 教職員集団の同僚性」が掲げられ、「(1) 教職員の受容的・支持的・相互扶助的な人間関係」(p.29)に次のことを記載しています。「早期的・効果的な生徒指導を行うには、教職員が気軽に話かできる、生徒指導実践について困ったときに、同僚教職員やスタッフに相談に乗ってもらえる、改善策や打開策を親身に考えてもらえる、具体的な助言や助力をしてもらえる等、受容的・支持的・相互扶助的な人間関係が形成され、組織として一体的な動きを取れるかどうかが鍵となります。また、職能開発という点からも、教職員が絶えず自らの生徒指導実践を振り返り、教職員同士で相互に意見を交わし、学び合うことのできる同僚関係が不可欠です。」

さらに、「生徒指導提要(改訂版)」の「4.2.1 組織の設置」(p.125)に「いじめへの対応において、組織が効果的に機能していないために重大事態が引き起こされるケースが見られることから、学校内外の連携に基づくより実効的な組織体制を構築することが課題となっています」と記しています。

2. 町田市の不登校増加が示すもの

4月の請願において、すでに不登校やいじめを防ぐために、様々な施策が取り組まれているとの話が、学校教育部長や教員委員のみなさまからありました。しかし、全国と同じように町田市内の小中学生の不登校が増えていることは、それらの施策が効果を上げてい

ないことを示しています。

これらの施策が効果を上げていない原因は、文部科学省が指摘している通り、「実効的な組織体制を構築」できていないことにあると考えられます。それは、教員が管理職を含めて信頼関係（同僚関係）を築けていないことを指していると考えます。

3. 信頼関係の大切さについての考察

信頼関係を築くとはどういうことでしょうか。

子どもを信頼するためには、その教員が、校長や他の教員の言動に違和感を抱いたときに、感じたことを相手に伝えることができる信頼関係があることが不可欠です。もし、違和感を抱いても、「こうしたらどうですか？」と言えない雰囲気があると、その教員は、本音を言えなかった自分を信頼できなくなります。自分を信頼できない人は、自分の判断に自信が持てず、人を信頼する決断ができなくなります。当然、その教員は子どもを信頼できません。そして、子どもは、そのことにすぐに気づき、その教員に相談しなくなります。

また、校長や教員に違和感を伝えることができなければ、その先入観に頼って、子どもを見ることになります。そうすると、子どもの「助けて」という心の叫びを、受け止めることができなくなります。

したがって、校長や教員の言動に違和感を抱いたときに、その違和感を伝え、本音を語り合える信頼関係が、絶対に必要だと考えます。

4. 信頼関係が失われた町田市の事例

2020年に発生した小学6年生の自死事件では、遺族が、2021年9月の記者会見（資料3）で、「学校や教育委員会から十分な説明がなく、不誠実だ」と述べています。また、その小学校の校長が他の自治体の教育長に栄転していることから、校長が昇進のためにいじめ問題を隠そうとしていた、と推測されます。

また、2015年に町田市内の小学1年生が、同級生からいじめによる暴行を受ける事件が起きました。被害児童の保護者は、2015年12月の文教社会常任委員会に提出した請願第16号（資料4）で、加害児童の保護者、学校長、教育委員会が同席した話し合いの場で、いじめによる暴行が確認されたにもかかわらず、その後、話し合いを重ねる内に「いじめの事実確認が出来ていない」という結論に変わったと記しています。そして、「学校と教育委員会によるいじめ事案の隠蔽」と記しています。

これらの事例から、教育委員会が保護者の信頼を失っていることが分かります。学校教育部長と教育長は、これらの事例を振り返って、保護者の信頼を得るためにどうしたら良かったと考えますでしょうか。

私は、これらの事例において、「いじめを隠さないといけない」という考え方が校長や教職員にあったこと、およびその問題を指摘できる信頼関係が教職員の間になかったことが原因だったと考えます。

もし、教職員の間信頼関係があって、教職員から「いじめを隠さない方がいいのでは？」という違和感の表明と問いかけがあり、それを管理職が真剣に受け止めることができていれば、遺族や保護者の信頼を失うことはなかったと考えます。

また、教員が、教職員どうしや保護者との信頼関係を大切にし、お互いの訴えを受け止

める姿勢があれば、子どもがいじめを受けているサインにすぐに気付くことができたでしょうし、いじめが深刻化するのを防止し、自殺を防ぐことができたであろうと考えます。

5. 信頼関係を大切にしている事例の紹介

2015年2月に公開された映画「みんなの学校」の舞台になった大阪市立大空小学校の校長、木村泰子氏はとても謙虚で、教職員どうしや保護者、そして子どもとの信頼関係を大切にしています。そして、本音で語ることの大切さを強調しています。木村泰子氏の著書「「みんなの学校」が教えてくれたこと」(2015年9月小学館)(資料5)の中から、そのことが分かる事例を二つ紹介します。

5.1 この子さえいなければ (p.60-p.67)

大空小学校開校の始業式の朝、転校してきたばかりの6年生の男の子(レイジ)が、講堂に入ってくるなり、「わーっ、ぎゃーっ」と大声を出しながら走り出しました。このとき私は「この子さえいなければ、良い学校が作れるのに」と思いました。

新学期が始まってからもレイジに振り回されました。毎日、脱走する彼を先生たちが追いかけてきました。私は、彼の担任の新任の女性教師に、彼の手を離さないことを依頼しました。彼女は愚痴一つこぼさず、彼に寄り添っていました。

梅雨に入った6月、雨で廊下が濡れて滑りやすくなっていたある日、私がレイジと一緒にいる担任に話しかけたとき、その一瞬の間を見て、彼は教室から飛び出しました。私より先に彼女があとを追いかけてきました。彼は全速力で廊下の端の階段まで行き、そこを下りれば、脱出できる状態でした。あとを追いかけて彼女は雨で濡れた廊下で足を滑らせ、「ドスン」としりもちをついた音が4階の静かな廊下に響き渡りました。すると彼は戻ってきて、倒れた女性教師に寄り添い、彼女のおしりをさすりながら、「痛かったね、痛かったね、痛かったね」といたわっていました。私は彼のクラスの子どもたちと一緒にその光景を見守っていました。

月曜日の朝会で、私はこの話をしました。それは、レイジへの懺悔であり、すべての子どもと大人(教職員、保護者、地域住民)たちに向けた私自身の「やり直し」です。また、彼が教室から逃げると、低学年の子たちが逃げた方向を教えてくれることがありました。みんなは、「先生を困らせる悪いお兄ちゃん」と思っていたでしょう。校長がそう思っていたのですから。「逃げられたのに戻ってきて、痛いね、痛いねって先生をさすってあげたんや。私はそんなレイジのことをちっともわかってへんかってん」本音で話す私の姿を子どもたちがどんなふうに見ていたかは分かりませんが、本音でぶつからなければ、本質はみつけられないと信じています。

その後、レイジは落ち着いて学校で過ごすようになりました。それは、彼が変わったのではなく、彼を見る周りの子どもや教職員の目が変わったからだと思います。先生のおしりをさすった彼の姿が周りの子どもや教職員の心に変化をもたらしたのでしょう。

レイジは「子どもが学ぶ 子ども同士が学び合う大空」の原点になりました。「この子さえいなければ」と思った子から、私はかけがえのない多くのことを学んだのです。

5.2 校長の失敗 (p.152-p.157)

開校後、月曜日の朝会で、本や新聞を読んで準備し、子どもにとって大事な話をしているつもりでした。2年目の夏休み前のとても暑い日に、朝会で一生懸命、話をしていると、2年生の男児がシャツを脱ぎ捨て、「校長先生、おしまい！」と言いました。子どもたちがざわざわする中、「暑い！お話、終わり」、さらに上半身裸になって「お風呂に入りたい」と言いました。私は心の中で「えーっ！」と叫び、打ちのめされました。子どもたちは一斉に哀れむような顔で私を見ました。一方で、子どもたちの顔が嬉しそうにも見えました。未熟な私は「もうちょっとだけ聞いて」とその子に両手を合わせて拝むようにお願いしたところ、もう仕方ないなという感じで「もうちょっとやで」と言ってくれました。ところが、私の話を聞いてくれていると思っていた他の子どもたちは、「えーっ、まだ話をするの？」という表情をしました。朝会のあと、いろいろな子に「あんたらも同じこと思った？」と尋ねたところ、全員が「うん」とか「ふふふ、まあね」と答えました。一方、教職員は次の3種類の反応を示しました。「はやくやめたほうが・・・」「あの子、すごいな」「校長先生、かわいそう」誰も「校長先生、頑張って！」と言う教職員はいませんでした。職員室で「ほんま、みんなひどいわ」と笑い合い、自分の校長講話が失敗だったこと、子どもたちは全員あの子と同じ気持ちだったこと、今回の経験が次に記すように、良い学びになったことを伝えました。

話をやめさせたその子は、保育園のとき、言葉が出にくい状態で、「いや」の一言だけ覚えたそうです。その子が入学した当初、「この子のために何ができる？」と担任は悩みましたが、教職員と相談しつつ、周りの友だちの動きや声が教材ではないか、みんなと同じ教室にいるだけでいいのではないかと話しました。その子が、教室の中で「いや」という言葉以外に学んだ言葉を使って、校長の話をとめてくれました。

大人の空気が読める子どもたちだけだったら、校長の話がOKかどうか分かりません。また、彼のそばに「ちょっと黙りなさい」という先生がついていたら、校長のつまらない話は続いていたでしょう。また、「こんな話聞いてられへん」と言って講堂の外に出て行ったら、普通の学校では怒られてしまいます。そうではなく、「面白くなかったことは間違っていない。でも、とった行動はどうか。違う行動とりや」と言えば、子どもは納得します。思ったことを言える子どもたちを学びの場から排除せず、一緒にいることで、彼らは学びのリーダーになることができるのです。

そして、彼の行動を切っ掛けに、教職員と話し合って、朝会の校長講話の代わりに全校道徳 (p.68-p.76) という行事を始めました。

6. おわりに

子どもたちが安心して学校に通えるためには、安心して校門をくぐり、安心して教室に入れることが必要です。安心して校門をくぐるためには、子どもが教職員を信頼していることが大切です。また、その子どもが教室に入るためには、他の子どもたちを信頼していることが大切です。子どもたちどうしや、子どもと教職員の信頼関係を支えるのは、保護者や地域住民が教職員を信頼していることです。学校によっては地域住民が学校教育に参加する伝統が作られている場合がありますが、その伝統を大切にして、地域住民からの信頼を損なうことがないことも大切だと考えます。

このような信頼関係の基礎になるのが、校長を含めた教職員どうしの信頼関係です。その信頼関係を築くためには、本音を語り、謙虚にお互いの意見を受け止め、お互いの意見を尊重できることが不可欠です。その信頼関係ができれば、子どもたちが安心できるために何が必要かについて、真剣な話し合いができ、誰もが安心して通える学校を実現できると信じています。教職員の意見が学校運営に反映されれば、それは喜びになり、働きがいを感じるようになります。そして、教職員にとって仕事をするのが楽しくなりますし、そういう教職員の姿を見ることで、子どもたちも学校に来ることが楽しくなると考えます。

この校長を含めた教職員どうしが信頼関係を築けるためには、教育委員や教育委員会のみなさんどうしの信頼関係が不可欠だと考えます。みなさんは本音で語ることができていますか。違和感を抱いたときにそれを伝えることができますか。本音を語れることは自分を大切にすることであり、自分の人生を幸せにすることであり、仕事を楽しむことです。そして、子どもの個性を大切にすることにつながると考えます。これは、文部科学省が言う「個別最適な学び」の出発点になると思います。

そこで、教育委員や教育委員会のみなさんに信頼関係を築くことがどういうことなのかについて真剣に考えていただきたいと思います。その結果を教育委員会の場で教えてください。特に、町田市教育行政の最高責任者である教育長は、「学校教育部長と同じ意見」と言うのではなく、教育長自身の言葉で、ご自分の考えを語っていただきたいと思います。

子どもたちの命は、教育委員と教育委員会のみなさまの肩にかかっています。町田市内のすべての小中学校において校長のリーダーシップの下に教職員どうしが真剣に本音で、子どもたちのために何ができるかについて語り合える学校運営を実現していただきたいと思います。そして、不登校が少しでも減ることを願っています。

ご検討、よろしくお願いいたします。

【参考資料】

資料1：「再調査報告書」（2024年2月21日 町田市いじめ問題調査委員会）（情報公開請求によって入手）[本文に戻る](#)

資料2：「生徒指導提要（改訂版）」（2022年12月 文部科学省）[本文に戻る](#)
https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf

資料3：「東京・町田の小6女児が自殺、同級生からのいじめ示すメモ 遺族「学校のタブレット温床に」」（2021年9月13日付 東京新聞）[本文に戻る](#)
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/130621>

資料4：平成27年12月町田市議会定例会 請願第16号「いじめ事件に対して真摯に取り組むことを求める請願」（2015年12月11日）[本文に戻る](#)
https://www.gikai-machida.jp/voices/GikaiDoc/attach/Se/Se675_2015_seigan16.pdf

資料5：木村泰子著「「みんなの学校」が教えてくれたこと」（2015年9月21日 小学館）
[本文に戻る](#)
<https://www.shogakukan.co.jp/books/09840163>

以上